

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心 No.290

人間、何でくたびれるかと言えば、少しでもまいことをしようという動揺でくたびれている。「ああよかった」「何がよかったのかと言えば、「私がかかった」というだけの話じゃ。」(澤木興道)

△解説▽「私がよくて、何で悪いの？」と聞き返したくなる。しかし澤木老師(1880~1965年)は「宿なし興道」と呼ばれて、家なく寺なく清貧に甘んじて坐禅一筋に生きた人である。欲望を満たそうと心が乱れている私たちがあわれだと

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.24 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月24日(水曜日)

中村元 慈しみの心 No.289

(名声、名誉を女性問題で失った人は)いろいろな思いに囚われ、人々から非難されて気がめいる。なにかと言われて刀剣をかざすように反撃し、嘘をつくことになる。(ブツダ)

△解説▽私はしばしば週刊誌を批判する。「下ねた」などで著名人の不徳の行為をあばいては「正義の味方面」をする。批判される方も悪いので、批判されて怒り、落ち込み、嘘をついて言い訳し、結局はばれる。古代インドでも同様だったようだ。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.23 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月23日(火曜日)

中村元 慈しみの心 No.292

捨てられてなお咲く花のあわれさに、また取り上げて水与えけり。(九条武子)

△解説▽どんなものにも「いのち」がある。「命」ではない。日本的性質はその「いのち」を通して自然と容易に同化する。私は花を折りとうとうとした幼児を「お花ちゃん」が痛いて泣くわよ」とたしなめた若い母親を見ている。花に痛いと感じる神経があるか否かの問題ではない。痛むのは母親の心なのである。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.26 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月26日(金曜日)

中村元 慈しみの心 No.291

愛語は愛心よりおこる。愛心は慈悲を種子とせり。(道元)

△解説▽愛語とは他人のためになる言葉のこと。その出発点は会った時の「お元気ですか」と別れる時の「お大事に」だという。言葉だけの問題ではない。愛語は他者がよかれと願う愛心に基づき、愛心は慈悲の心である。慈悲心から出る言葉には「回天の力」があると道元はいう。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.25 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月25日(木曜日)

中村 元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村 元 慈しみの心

No.294

われら懺悔す。無始よりこのかた妄想にまどわれて衆罪を作る。(覚鑿)

△解説▽政治家でも経営者でもライバルがいると「あんな奴、死んじまえばいいのに」などと呟いている。人間の妄想がつくる罪の一つである。こうした罪を私たちは積み重ねている。「無始より」というのはすべての人間が共有している妄想だからである。それを懺悔することが真に人間らしく生きることに連なる。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.28 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月28日(日曜日)

中村 元 慈しみの心

No.293

知らず脚跟下に大光明を放つことを。(碧巖録)

△解説▽脚下照顧という言葉がある。前ばかり見ていないで、足元をよく見よ。何事も足元をしっかりと固めてから前に進め、という教えである。この教訓を「靴をそろえよ」と応用して受け取る人もいる。私は賛成である。家に入る時に靴をそろえるのは、生活の細部にまで気遣いすることであり、人生を美なるものとする姿勢の象徴だからである。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.27 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月27日(土曜日)

中村 元 慈しみの心

No.296

如何にして真の道にかなひなむ。千歳のうちに一日なりとも。(良寛)

△解説▽一日中まりをつきつつ子供と遊び戯れたり、清貧、純真、素直な良寛の逸話が多い。しかし彼の禅僧としての境涯は深く高い。道元禅師の説法を夜ひとり読んで感激して涙をこぼしたりしている。その良寛が一日でもいいから仏法に叶った生活をした、と自省している。私たちは一日でもいいから、賢沢に過ごしたいと願う。その差は大きい。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.30 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月30日(火曜日)

中村 元 慈しみの心

No.295

足で蛇の頭を踏まないようにするのと同様に、よく気をつけてもるもの欲望を回避する人は、世のわずらいのり超える。(ブツダ)

△解説▽ブツダはあたりまえのことを言っている。しかし実践は難しい。欲望のない人間はいないし、欲望をかなえようと努力するから進歩もあり生きる喜びもある。しかし人生の煩いも欲望から生じる。だから蛇を避けて歩くように、欲望を注意深く調整して生きる必要がある。

奈良康明・駒澤大名誉教授

2016.8.29 中村元記念館協力

2016年(平成28年)8月29日(月曜日)